

## 業界短信

(22年5月1日～6月30日)

### キヨシゲ、200トンサーボプレス増設（産業新聞、5/13）

㈱キヨシゲ（千葉県浦安市、小林光徳社長）はこのほど、加工センターに200トンサーボプレス1基を増設した。抜きや曲げといった加工を高精度で行えるほか、絞りなど新たな加工領域への拡大などの導入効果を期待する。金型に合わせたショートストロークでサイクル時間を短縮するだけでなく、抜き加工では従来以上に精密なシェービング加工が可能になり、曲げ加工でのスプリングバックを低減するなど、後工程の削減、作業効率の向上にもつながる。また、均等に加圧することが可能なことで絞りなどの加工領域や、加工可能な鋼材の適用範囲も広がる。

### 阿部鋼材、品質向上、人材育成に注力（鉄鋼新聞、5/17）

阿部鋼材㈱（札幌市、阿部仁社長）は、今年度、“人”に重点を置いたソフト面の充実を目指す。そのひとつの手段として先月、ISO9001の取得を目指しキックオフした。同社は、昨年度までに、老朽化した発寒工場の事務所新築や、プラズマのバージョンアップ、ガス切断機の更新など、大型の設備投資がほぼ一巡。これに続いて今年度は、世代交代を見据えた人材育成や内部強化に取り組む。これは一昨年からの発寒と石狩の両工場を進めていた5S活動を拡大・充実させ、営業や管理部門を含めた全社を挙げて実施。具体的な取り組みとしては、プロジェクト委員会を設置し、社としての基本方針を策定しながら、第一に、モノづくりの基本である“品質”を重視。部門ごとに勉強会やミーティングの開催、コミュニケーションの活発化で、会社の理念や意義、顧客対応や品質に対する各人の意識向上と実際的な取り組みを徹底し、組織としてもレベルアップを目指す。一連の最終目的は、「お客様に安心して使っていただける製品の提供、顧客満足度の追求で、ISOの取得を通じて、その実を取ることを重視しながら、全社員で一歩ずつ進みたいとしている。すでに一昨年からは進めている5S活動では2年間で2300件の改善項目を掘り起こし、対応しているだけに、今回のISO取得に向けた取り組みも順調な滑り出しを見せている。

### 橋梁需要、大幅減に（産業新聞、5/17）

地方自治体の財政逼迫などに伴う公共事業の削減によって、2010年度の国内構成橋梁需要量は前年度を大きく下回り、23万トン前後になる見通しだ。関係筋によると、09年度需要量は前年度比10%強減少の26～27万トンになった模様。橋梁ファブの生産能力は年間50万トン前後とみられ、供給過多状態が続いている。

橋梁需要は、ピークの90年代後半には年間90万トン程度出ていたが、地方自治体の財政難が顕著になり、07年度には40万トン弱まで減少し、新設案件が激減する一

方で、既設の橋梁をメンテナンスし、寿命延長を図る動きが主体になっている。橋梁談合が発覚した 05 年度以降はファブ各社ともに抜本的な受注姿勢と収益体制の見直しを余儀なくされている。発注者側の地方自治体が総合評価を取り入れたことにより、ファブは価格勝負からの脱却を図っている。

#### **韓国輸出が四半期最高（産業新聞、5/19）**

韓国鉄鋼協会によると、韓国の 1～3 月厚板輸出量は前年比 56% 増の 39 万 81 千トンと四半期最高だった。生産量は 197 万トンと、前年同期の 186 万トンから増加したが、国内販売は 10% 減少した。

#### **中部鋼鉄、顧客目線で品質向上（産業新聞、5/19）**

中部鋼鉄は、需要家ニーズに合致した更なる技術、品質レベルの向上、コスト削減などを図るため、「品質マスタープラン」を策定し、本年度から本格的な取り組みを開始した。需要家目線に基づいた品質課題を掲げ、今後 3 年間で各目標値のクリアを目指す取り組みで、内外のメーカー間競争が激化する厚板市場での生き残りにつなげていくことが狙い。取り組む課題は、①平坦度②表面性状③納期④厚板寸法精度⑤内部品質の 5 項目。同社が掲げる“顧客信頼度ナンバーワン企業を目指す”との方針に基づき、顧客目線に再度、焦点を当てることで更なる技術レベルの向上と信頼獲得を図る。

#### **豊鋼材荊田工場、海岸水切用天井クレーン稼働式（鉄鋼新聞、5/21）**

豊鋼材工業(株)（福岡県粕屋郡、木村昭夫社長）は 27 日、福岡県京都郡の荊田工場を進めていた「海岸水切り用天井クレーン」の更新工事が完了したのに伴い、現地で稼働式典及び安全祈願祭を開催する。期間設備の一環で、72 年から設置しているクレーンを 52 トンクレーンに更新した。

#### **青山商店、本社工場を移転集約（産業新聞、5/31）**

(株)青山商店（名古屋市熱田区、青山高久社長）は、本社工場を東海市に移転新築し、6 月 1 日から本稼働を開始する。分散していた拠点を集約するとともに、ガス溶断、レーザ加工機も更新。トータル的な生産効率の向上により、顧客サービスの充実を図り、取引先への存在価値を高めていく方針。今後、需要動向などをにらみ 2 期工事の実施も計画している。用地取得なども含めた総投資額は 10 億円弱。同社は 1951 年設立で、本年 6 月で 60 周年を迎える。加工能力はシャーリングが約 800 トン、ガスとレーザで 500 トン程度を見込んでいる。

#### 4月の建設機械出荷、65%増の1181億円（産業新聞、6/8）

日本建設機械工業会が発表した4月の週下記額は、前年比65%増の1181億円となり、4カ月連続で増加。うち内需は同10%増の281億円で2カ月連続の増加。外需は95%増の900億円で4カ月連続の増加。内需に機種別では、主力の油圧ショベルが24%増の59億円、建設用クレーンは16%増の44億円と、前年低迷の反動で増加したもの、水準自体は低迷している。

#### 菰下鋸断、月間加工量3000トンに回復（鉄鋼新聞、6/9）

阿部鋼材(株)（札幌市、阿部仁社長）は、今年度、“人”に重点を置いたソフト面の充実を目指す。そのひとつの手段として先月、ISO9001の取得を目指しキックオフした。同社は、昨年度までに、老朽化した発寒工場の事務所新築や、プラズマのバージョンアップ、ガス切断機の更新など、大型の設備投資がほぼ一巡。これに続いて今年度は、世代交代を見据えた人材育成や内部強化に取り組む。これは一昨年から発寒と石狩の両工場で進めていた5S活動を拡大・充実させ、営業や管理部門を含めた全社を挙げて実施。具体的な取り組みとしては、プロジェクト委員会を設置し、社としての基本方針を策定しながら、第一に、モノづくりの基本である“品質”を重視。部門ごとに勉強会やミーティングの開催、コミュニケーションの活発化で、会社の理念や意義、顧客対応や品質に対する各人の意識向上と実際的な取り組みを徹底し、組織としてもレベルアップを目指す。一連の最終目的は、「お客様に安心して使っていただける製品の提供、顧客満足度の追求で、ISOの取得を通じて、その実を取ることを重視しながら、全社員で一歩ずつ進みたいとしている。すでに一昨年から進めている5S活動では2年間で2300件の改善項目を掘り起こし、対応しているだけに、今回のISO取得に向けた取り組みも順調な滑り出しを見せている。

#### 橋梁需要、大幅減に（産業新聞、5/17）

地方自治体の財政逼迫などに伴う公共事業の削減によって、2010年度の国内構成橋梁需要量は前年度を大きく下回り、23万トン前後になる見通しだ。関係筋によると、09年度需要量は前年度比10%強減少の26～27万トンになった模様。橋梁ファブの生産能力は年間50万トン前後とみられ、供給過多状態が続いている。

橋梁需要は、ピークの90年代後半には年間90万トン程度出ていたが、地方自治体の財政難が顕著になり、07年度には40万トン弱まで減少し、新設案件が激減する一方で、既設の橋梁をメンテナンスし、寿命延長を図る動きが主体になっている。橋梁談合が発覚した05年度以降はファブ各社ともに抜本的な受注姿勢と収益体制の見直しを余儀なくされている。発注者側の地方自治体が総合評価を取り入れたことにより、ファブは価格勝負からの脱却を図っている。

**韓国輸出が四半期最高（産業新聞、5/19）**

韓国鉄鋼協会によると、韓国の1～3月厚板輸出量は前年比56%増の39万81千トンと四半期最高だった。生産量は197万トンと、前年同期の186万トンから増加したが、国内販売は10%減少した。

**中部鋼板、顧客目線で品質向上（産業新聞、5/19）**

中部鋼板は、需要家ニーズに合致した更なる技術、品質レベルの向上、コスト削減などを図るため、「品質マスタープラン」を策定し、本年度から本格的な取り組みを開始した。需要家目線に基づいた品質課題を掲げ、今後3年間で各目標値のクリアを目指す取り組みで、内外のメーカー間競争が激化する厚板市場での生き残りにつなげていくことが狙い。取り組む課題は、①平坦度②表面性状③納期④厚板寸法精度⑤内部品質の5項目。同社が掲げる“顧客信頼度ナンバーワン企業を目指す”との方針に基づき、顧客目線に再度、焦点を当てることで更なる技術レベルの向上と信頼獲得を図る。

**豊鋼材荻田工場、海岸水切用天井クレーン稼働式（鉄鋼新聞、5/21）**

豊鋼材工業(株)（福岡県粕屋郡、木村昭夫社長）は27日、福岡県京都郡の荻田工場を進めていた「海岸水切り用天井クレーン」の更新工事が完了したのに伴い、現地で稼働式典及び安全祈願祭を開催する。期間設備の一環で、72年から設置しているクレーンを52トンクレーンに更新した。

**青山商店、本社工場を移転集約（産業新聞、5/31）**

(株)青山商店（名古屋市熱田区、青山高久社長）は、本社工場を東海市に移転新築し、6月1日から本稼働を開始する。分散していた拠点を集約するとともに、ガス溶断、レーザー加工機も更新。トータル的な生産効率の向上により、顧客サービスの充実を図り、取引先への存在価値を高めていく方針。今後、需要動向などをにらみ2期工事の実施も計画している。用地取得なども含めた総投資額は10億円弱。同社は1951年設立で、本年6月で60周年を迎える。加工能力はシャーリングが約800トン、ガスとレーザーで500トン程度を見込んでいる。